

あけまして おめでとうございませす

新年あけましておめでとうございませす。

町民の皆さま方におかれましては、健やかな新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。また、旧年中は町政運営諸般にわたりまして温かいご支援とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

町長 徳 永 哲 雄



有の震災をはじめ、各地の台風などの被害、また、世界経済の混迷、T P P の交渉参加問題など、さまざまな課題が山積し、それが社会全体の閉塞感を生み、国民の生活にも大きな影を落としているところでございます。当町では、大震災で被災された方々へいち早く、日用品や食料品などの物資支援を行うことはもちろんのこと、援農の縁で日頃から交流がある岩手県久慈市に対しては、物資とともに見舞金をお贈りさせていただきました。さらには、被災地から当町に避難してこられた方々や子どもたちに対しては、さまざまな支援をさせていただき、これに併せて町民ボランティアの手による支援など、町ぐるみでさまざまな対応をまいりました。

リアルオープンし、約13万人ものお客さまが訪れました。さらには、光ファイバー網の開通や弟子屈中学校の落成、ミシユラングリンガイド・ジャポンにおいて摩周湖が最高評価の三つ星を獲得、陸上競技における小中高生の全国大会出場など、明るい話題も数多くありました。

さて、当町の基幹産業である観光につきましては、3・11の震災直後には観光客の激減が予想されましたが、道央圏所在の各中学校が行なっている東北方面への修学旅行を道東方面に変更していただくなど、官民一体となって誘客に取り組んだことから、急激な減少は避けられ、6月以降はほぼ前年並みで経過することができました。景気や雇用が低迷している社会情勢の中ではありますが、本町のたくさんの観光資源と町民の皆さまが結びつき、さらに農業や商工業などの多様な産業と連携を図ることによって、本町の観光を一層、魅力的、感動的なものにしていきたいと考えております。

町議会 議長 八幡 豊 行



町民の皆さま、あけましておめでとうございます。平成24年の新春を迎えるにあたり、町議会を代表し、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。皆さまにおかれましては、ご家族おそろいで新年をお迎えになられたことを、心よりお喜び申し上げます。また、日頃から町議会に対する格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

年頭にあたって

平成23年を振り返りますと、やはり未曾有の大災害であった東日本大震災が頭をよぎります。ご家族と離れ離れになってしまった方々、住居ごと全てを失くしてしまった方々のことを思いますと心が痛みます。復興に際し問題は山積しておりますが、国による早急な対応と被災者の皆さまが近々に普段の生活を取り戻せることを切に願います。

また、T P P への交渉参加表明など、農業をはじめとした基幹産業に対する危機感が一段と感じられた年となり、今後も先行き不安な状況が続くことが懸念されます。

さて、本町に目を向けますと、基幹産業の一つであります農業では、畑作が平均では上昇傾向にあったものの、酪農は一昨年の猛暑の影響を引きずり分娩時期のずれ、疾病なども多く見られ依然乳量の伸びが鈍化している状況にあります。加えて、T P P 参加などの先行き不透明な状況では、ますます予断を許さない状況下にあります。

観光では、昨年の震災の影響が依然として続いており、今後についても明るい兆しが見られませんが、新たにオープンした「道の駅」では、当初の予想を上回る集客があったことが大変喜ばしいことであります。今後は、これを維持しつつ観光をはじめ商工業にも良い方向へ影響していくよう期待するものがあります。

結びになりましたが、新たな年が皆さまにとって、さらなる充実と飛躍の年でありますように、ご清祥とご多幸をご祈念申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

町教育委員会 教育長 小林 俊 夫



輝かしい平成24年の年頭にあたり、謹んで初春のお慶びを申し上げます。

昨年3月、東日本大震災が発生し、東北地方を中心に甚大な被害をもたらしました。とりわけ、福島第一原発事故は、今なお解決の道筋が不透明な状態にあります。一方で、この未曾有の大震災は、私たちに「絆」の大切さを再認識させてくれました。被害に遭われた多くの方々にお見舞いを申し上げますとともに、一刻も早い復興を願わずにいられます。

さて、昨年の本町に目を向けますと、弟子屈中学校新校舎の完成と落成記念式典の開催はもとより、町内の園児・児童生徒が一堂に会し植樹活動に取り組んだグリーン・タッチ事業の実施、全道の小学校長700人ほどをお迎えした第54回北海道小学校長会教育研究釧路・弟子屈大会の開催など、町民の皆さまに数

として位置づけ、災害時には地域住民皆さまが安心して避難できる施設として活用を図ってまいります。

本町の財政は、昨年に引き続き厳しい状況ではありますが、身の丈にあった行財政運営の中で、これまでの事業などを見直しつつ重点を絞り込みながら、特色あるまちづくりを行ってまいります。今年度は、泉ヶ丘団地2棟12戸の建設を予定しており、また、昨年落成した弟子屈中学校新校舎周辺には、憩いの広場や多目的運動広場(グラウンド)の造成など外構整備を進め、さらには、リニューアルした道の駅の背後に公園を整備するなど、町民の皆さまの暮らしの充実を図ってまいります。

策定作業中の第5次総合計画につきましては今後、町議会の議決などの手順を経て策定し、これを本町の10年間の未来予想図として町民の皆さまと共有しながらまちづくりを推進してまいります。結びに、社会情勢は今なお不透明ではありますが「誰もが自慢し、誰もが誇れる町」となるように、新しい時代を切り開く気概を持ってさまざまな取り組みに臨んでまいります。町民の皆さまには町政に対するより一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

多くのご理解とご協力をいただきました。本年は、昨年末に完成した新給食センターでの配食開始、弟子屈中学校における外構工事、町立図書館における新図書管理システムの運用と学校との連携をはじめ、学校教育や社会教育に関する各種事業を予定しております。

教育委員会といたしましては、本町の教育目標である「学校、家庭、地域社会が連携し、ふるさとを創る人を育む」ことを基本に、関係機関・団体と連携を図りながら、児童生徒の知・徳・体のバランスのとれた力の育成や、町民一人一人の学びの環境づくりなどを着実に推進してまいります。

町民の皆さまの願いや意見を積極的に生かしながら、子どもたちが夢や希望に向かい生き生きと学校生活を送れるよう、また、町民の皆さまが健康で生きがいと潤いのある充実した生活を営むことができるよう、鋭意努力してまいりますので、今後とも皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。本年が皆さまにとりまして健康で幸多き、素晴らしい1年となり、ご多幸を祈念申し上げます。年頭のご挨拶といたします。